

測量計算・電子野帳 (TS)

A-SurveyAd

Android

エース プロジェクト

2021/01

Ver 3.5.1 にて追加、変更された機能です。

- ・ 継続観測の一部変更
- ・ 「GPS 座標測定」ナビに機能追加
- ・ 「観測手簿」フォルダと CSV 出力

1、継続観測の一部変更

下記は、3.5.0 までの仕様です。

大きな現場で、使用している場合に現場を分けて作業しているとの事です。
道路の路線データは、1 現場 1 路線なので複数の路線がある場合は
現場を分ける必要があります。

この様な現場にて、同一器械点からの観測にて現場をまたがって行いたいという
要望がありました。

現場を変更すると、後視観測からやり直しになっていました。

下記の条件において現場をまたがった継続観測を可能。

- ・ 常に、最後に行なった後視観測の情報が有効です。
- ・ 現場間で、同じ器械点、後視点が有る事。
- ・ 器械点、後視点の座標値が同じである事。(少数以下 3 桁まで同じである事)
- ・ 現場間の継続観測は、当日のみ有効。

Aという現場で、器械点(T1)、後視点(T2)で、観測中。
現場をBに変更すると、
器械点名、後視点名及び、座標値が同じかをチェックし
同一であれば、下記のダイアログが表示されます。



Aの現場で観測した後視観測データを使用した、
継続観測ができます。
このとき、APA ファイルは、後視観測が終わった
状態です。

Bの現場から、Aに戻った場合も同じ手順と
なります。
Cの現場に移行しても同じです。

Aの現場で、再度Aの現場を選択した場合も
同じです。

この処理が行われるのは、

- ・ 選択プログラムは、「放射トラバース」か「杭打ち」である必要があります。
- ・ 「現場を開く」を実行した場合。
- ・ A-AdB を再起動した場合。
休憩後の起動でも継続した観測ができます。

これは、Ver 2.6.2 で追加された機能です。

今回、仕様変更したのは、下記のケースです。

・ **A-AdB** を再起動した場合。

休憩後の起動でも継続した観測ができます。

器械点 T1 で測定中に、TS はそのまま

休憩に入り、プログラムは終了したとします。

その後、A-Ad を起動すると、新たに T1_1.apa ファイルが作成され

継続観測出来ました。

この時、T1_1.apa ファイルの内容は、後視観測データまでは T1.apa と同じ内容で追加で、観測したデータが T1_1.apa に追加されました。

データとしては、問題ないのですが、別ファイルになるので

今回、T1.apa の内容をチェックし継続なら、そのまま T1.apa に追加でデータを保存できるように変更しました。

内容のチェックは、今までの条件と更に最後に観測した APA ファイルと開始時間が同じなら、最後の APA ファイルに追加になります。

例えば、再起動後に違う器械点に移動して測定を開始した場合は

T1_1.apa ファイルは、後視観測までの APA ファイルとして残った状態でした。

今回の変更で、このような後視観測だけの APA ファイルが残る事はなくなります。

例 1

現場 A にて、T1.apa で観測

休憩後に、再起動して現場 A で作業、T1.apa に追加で保存

(作業開始前に、整準と後視点の方向確認はしてください。)

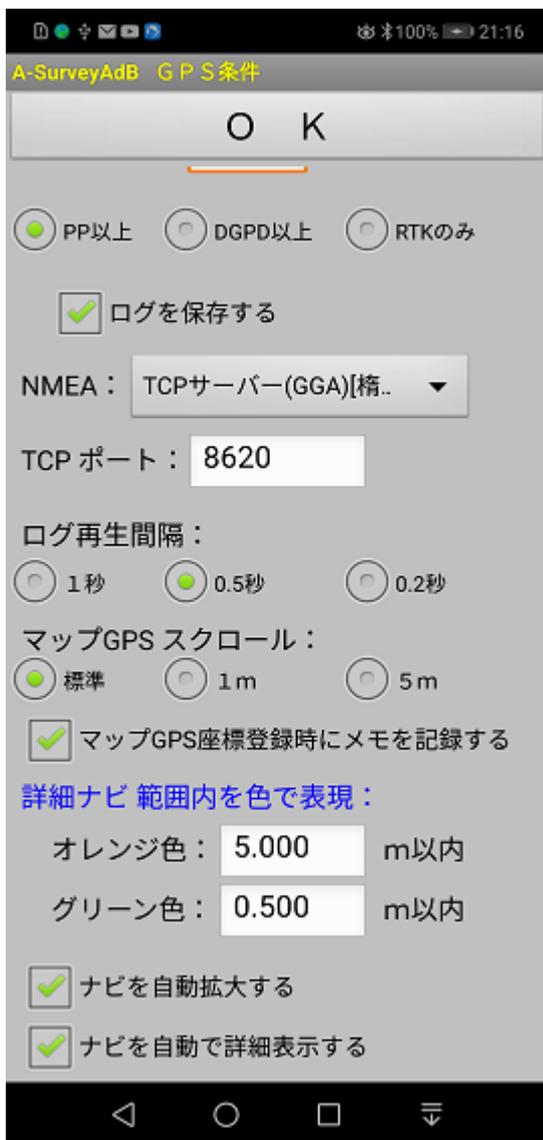
例 2

現場 A にて、T1.apa で観測

現場 B に変更、同じ器械点、後視点がある場合、開始時刻が同じ APA ファイルがあれば、追加で保存されるが、無ければ T1_a.apa で保存される。

2、「GPS 座標測定」ナビに機能追加

Drogger GPS +DG-PRO1RWS で使用する方が多いので、「GPS 座標測定」も大きく変わってきました。
海上で使用する方からの投稿があり、追加しました。
陸上でも、この追加は使えると思います。



前回のバージョンの説明書もみてください。
追加の仕様です。

□ナビを自動拡大する

これにチェックを付けると、目標までの距離に応じて自動で拡大します。
10m毎に自動で**拡大**、**縮小表示**します。

□ナビを自動で詳細表示

これにチェックを付けると、
オレンジ色の入力距離以内になると
自動で詳細表示になります。
入力距離以上離れると、詳細表示は自動で
OFFになります。



←— 今回から、ナビ中も情報表示のままにしました。
以前は、方位、距離、比高を表示していましたが
プロット画面に、表示してありますし、詳細表示も
あるので、不要と考えました。

[Drogger GPS +DG-PRO1RWS](#) など機材が容易に
入手できて、使用する機会も増えましたね。

そこで、より判り易くするために、
東西南北、距離の表示の色を、測位で分ける事に
しました。

PP	: 黒
DGPS	: 茶色
RTK Float	: マゼンダ
RTK FIX	: 青

距離の数値を見て、色で測位状態が判ります。

東西南北、距離の値は、1000m以上は、その数値がカットされます。

例えば、1125.123m の場合、表示は 125.123m となります。

1 km以上離れたところから、ナビしませんよね・・・。

PP と DGPS



RTK Float

RTK FIX

詳細画面も、同様に測位状態を色分けして表示します。



3、「観測手簿」フォルダと CSV 出力

観測手簿を、表示すると テキストファイルで保存されます。
T1.apa の観測手簿なら、 T1_Note.txt というファイル名で現場フォルダの直下に保存されます。

今回は、このファイルの保存先を現場フォルダの下の「観測手簿」フォルダに保存するように、変更しました。
同時に、観測手簿の項目、数値を CSV ファイルにして保存します。
このファイル名は、T1.csv になります。

「観測手簿」フォルダに、T1_Note.txt と T1.csv が対で保存されるという事です。

CSV ファイルは、エクセルで読み込んで帳票を作成したいという要望から対応しました。